

不安な気持ちはよくわかる だから応援したい

今回、伊藤隼也は埼玉県看護協会が運営する埼玉県ナースセンターの復職支援、「オーダーメイド技術講習会」の様子を取材。

受講者や講師の皆さん、同協会の佐藤啓子さん、**禰屋文恵さん**に話を聞きました。



シミュレーターを使って採血の演習。「不安なので参加した」と受講者の1人

もう一度「現場」に出よう——
そんな看護師の不安を取り除く
オーダーメイドによる実技指導
こんな心強い支援はないと思う



個人防護具のエプロンとグローブの脱着を教わる

伊藤 受講者にも話を伺いました。1人は「子育てが落ちていたのですぐに働きたい。保健師の資格を活かしたい」と。もう1人は復帰先が決まっていて、その医療機関で採血が必要だから受講したそうです。「今まであまり考えずにやっていたが、一つひとつに意味があると改めて感じた」と言っていました。看護にエビデンスがあるという部分も重視されているのでしょうか。

東 はい。本日の演習で使った医療材料を就職先の医療機関で使うとは限りません。しかし、技術の原理原則は変わらないので、そこだけはしっかりと確認して帰っていただきたいと思っています。エビデンスがあるということは、まさに原理原則がある

伊藤 受講者の反応はどうでしょう。東 受講後にアンケートを書いていたのですが、「自信につながらなかった」と書いてあると、一歩踏み出せたのかなと感じることも多いです。受講して終了とならないよう、私たち

師をやらせていただいています。

「復職希望の看護師の声に応え 個別対応型の講習会を実施」

伊藤 受講者にも話を伺いました。

1人は「子育てが落ちていたのですぐに働きたい。保健師の資格を活かしたい」と。もう1人は復帰先が決まっていて、その医療機関で採血が必要だから受講したそうです。「今まであまり考えずにやっていたが、一つひとつに意味があると改めて感じた」と言っていました。看護にエビデンスがあるという部分も重視されているのでしょうか。

東 はい。本日の演習で使った医療

「2時間半みっちり講義と実技
点滴と採血は希望者が多い」

伊藤 埼玉県看護協会が行う看護師の復職サポートを拝見しましたが、午前10時から2時間半。充実した講習会だと感じました。

禰屋(事業部ナースセンター課長)

今日行ったのは「オーダーメイド技術講習会」という、未就業者を対象とした無料の講習会になります。

伊藤 今日の講習は採血と点滴で、実技ではブランクがあるからなのか、最初は恐る恐るという感じでしたが、最後のほうはかなり手慣れた感じで留置針の刺入などをされていました。ブランクも1年間ぐらいから10年間

2時間半みっちり講義と実技

点滴と採血は希望者が多い

伊藤 埼玉県看護協会が行う看護師の復職サポートを拝見しましたが、午前10時から2時間半。充実した講習会だと感じました。

禰屋(事業部ナースセンター課長)

今日行ったのは「オーダーメイド技術講習会」という、未就業者を対象とした無料の講習会になります。

伊藤 今日の講習は採血と点滴で、実技ではブランクがあるからなのか、最初は恐る恐るという感じでしたが、最後のほうはかなり手慣れた感じで留置針の刺入などをされていました。ブランクも1年間ぐらいから10年間

ぐらまでと、さまざま背景の方

が復職を望まれているんですね。

禰屋 復職を考えるにあたって、

もっとも不安が強いとおっしゃるの

が、点滴と採血なんですね。ですので、

この講習会でも点滴と採血は重視し

ています。実際、希望者も多いです。

伊藤 なるほど。講師をされた東(ひろみ)さん、とても教え上手だという印象を受けました。

東 ありがとうございます。ここ(ナースセンター)の職員になる前、4年間

ほど看護学校の教員として基礎看護

技術などを教えていたので、経験が

生きているのかもしれません。

伊藤 必要なポイントはしっかりと踏

まえつつ、かといってあまり堅苦し

くなく、時々笑わせたりして。受講者

に寄り添つている感じがしました。

東 医療材料がどんどん新しくなつ

ているので、ブランクが長いとそれ

を使うのが怖いと思う人が少なくな

いです。ですから、復職までの期間が

長い方については、特に気を付けて

見るようになっています。

伊藤 香川(みよ子)さんは、緊張し

ながら採血の針をシミュレーターの腕に刺している受講者をやさしく見

守っていたのが印象的でした。

香川 講師になつて7年目になりますが、実は、私自身もブランクがあつて、この技術講習会を受けたことがあります。不安な気持ちちはよくわ

かるので応援したいという思いで講

くなく、時々笑わせたりして。受講者に寄り添つている感じがしました。

東 医療材料がどんどん新しくなつて、ブランクが長いとそれを使うのが怖いと思う人が少なくなります。ですから、復職までの期間が長い方については、特に気を付けて見るようになっています。

伊藤 香川(みよ子)さんは、緊張しながら採血の針をシミュレーターの腕に刺している受講者をやさしく見守っていたのが印象的でした。

香川 講師になつて7年目になりますが、実は、私自身もブランクがあつて、この技術講習会を受けたことがあります。不安な気持ちちはよくわかるので応援したいという思いで講



最初に座学で知識を得る。この日の受講者は5人



公益社団法人埼玉県看護協会

PROFILE

保健師、助産師、看護師・准看護師が自主的に会員となり運営する職能団体。1947年7月に1150人の会員により日本看護協会埼玉県支部として設立された。1981年4月、日本看護協会の組織改定に伴い社団法人埼玉県看護協会となり、2012年4月には公益社団法人埼玉県看護協会となる。会員数は2022年8月末時点で2万5000人を達成した。

たので、集団ではなく、個別対応というかたちでオーダーメイド技術講習会を開くことになりました。

「急変、経管栄養などもニーズ大 復職の場には保育園や学校も」



採血の手本を見せつつ、注意点などを説明する東さん

技術講習会も、今ではさまざまな講習内容が用意されています。

伊藤 最初は採血と点滴から始めた技術講習会も、今はさまざまな講習内容が用意されています。

禰屋 はい。「採血と点滴」と、介護現場でのニーズが高くなってきた「呼吸フィジカルアセスメントの基礎・吸引」の2つを、2017年からスタートさせました。その後は社会情勢などを鑑みながら講習内容を増やしている状況で、その一つが「急変時の観察と看護のポイント」です。

伊藤 素晴らしい取り組みですね。そもそもこの講習会を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

禰屋 もともとナースセンターでは「再就職技術講習会」を実施していました。これは協力いただいている県内の病院や介護施設で、復職に必要な最新の看護の知識や技術を学ぶというものです。ここに参加された方のだいたい6割が職場復帰されます。そのようななかで、採血や点滴に不安があるという声があり、「もう1回受けたい」という希望が多かつ

けは何だったのでしょうか。

禰屋 もともとナースセンターでは「再就職技術講習会」を実施していました。これは協力いただいている県内の病院や介護施設で、復職に必要な最新の看護の知識や技術を学ぶというものです。ここに参加された方のだいたい6割が職場復帰されます。そのようななかで、採血や点滴に不安があるという声があり、「もう1回受けたい」という希望が多かつ

けは何だったのでしょうか。

禰屋 2021年9月には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、今後は看護師のニーズも高くなると予想されますので、今年から新たに「経管栄養」を講習内容に追加しています。

伊藤 復職先は保育園や幼稚園、学校なども視野に入れているということですか？

佐藤(常務理事) はい。近年、特別支援学校や特別支援学級からの看護職

求職者と募集施設のマッチングや多くの潜在看護師に届かせるための広報活動の仕方など……
解決すべき課題も少なくない

「課題は需要と供給のマッチング
もつと広報して広めていきたい」

伊藤 最後に復職支援の課題についてお聞きできればと思います。

禰屋 一つはマッチングです。例えば、埼玉県ナースセンター(eナースセンター)には現在、約1300人の看護職が登録しています。復職希望者はたくさんいるのですが、求職者と求人施設のニーズに違いがあつて、条件になかなかマッチした職場が見つからないという問題があります。



受講者を近くで見守る香川さん



点滴の実習では20mlの輸液セットを使用

習会の参加者の6割が職場復帰しているとお話ししましたが、ここ2年はコロナの影響で2割ぐらいに減りました。医療機関での技術講習会が開きにくくことも大きいです。やはり皆さん、現場での実習を経て復帰したいと思われていますので。

伊藤 ほかに課題はありますか？

禰屋 広報活動でしょうか。講習会のことは協会のホームページに案内が載っていますが、eナースの登録者に定期的に案内が送られています。また、ハローワークに年間スケジュールの告知パンフレットなどを置かせてもらっていますが、十分な掘り起こしができていません。もう少し広報に力をいられるような環境があればいいのだと思います。

伊藤 それに関しては、看護免許を更新制度にして拾い出すとか、講習会を受けたらライセンスが更新でき

伊藤 隼也

(いとう しゅんや)

医療ジャーナリスト・認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク(HEM-Net)理事・写真家・医療情報研究所代表

profile

患者中心の医療を実現するため医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中ホームページshunya-ito.tv



久しぶりの採血、当時を思い出しながら……

るとか、いろいろとやり方はありますけれどね。でも、埼玉県ナースセンターの復職支援の試みはお手本になると思います。

禰屋 私たちは個別講習にこだわって、日々、受講者の不安が一つでもそぎ落とされればいいなと思いながら、一同、取り組んでいます。

伊藤 超高齢社会で求められている生涯現役を支えるのは、知識や技術のアップデートで、今回の取り組みは本当に重要なことがあります。潜看護師の復職にはさまざまなものがありますが、システムチックなサポートが全国規模で確立する必要がありますね。

伊藤 今日はありがとうございました。

以外は、協力いただける県内の医療機関の看護師にお願いしています。**伊藤** 先ほど東さんが、受講後は電話でフォローアップをしていると話していましたが、実際に復職した後にこちらで何かサポートするようなことはあるのでしょうか。

禰屋 「職場復帰した後のお悩み相談」は受けています。また、今日は採血や点滴でしたが、職場復帰してみたら吸引が必要だったというときには、例外的に受講を認めています。どうしてもという理由があり、かつ人數にゆとりがあれば、ということですが、基本的に復職したらその看護師は就職先の施設の職員なので、技術向上はその施設が担うものというスタンスですね。